

学校適正配置計画策定を見据えた、 望ましい学習環境の「見える化」

長野県小諸市教育委員会

(令和2年度 学校魅力化フォーラム)

小諸市の紹介



電車 (1時間30分)

北陸新幹線	しなの鉄道
東京駅	軽井沢駅
北陸新幹線	JR小海線
東京駅	佐久平駅
	小諸駅

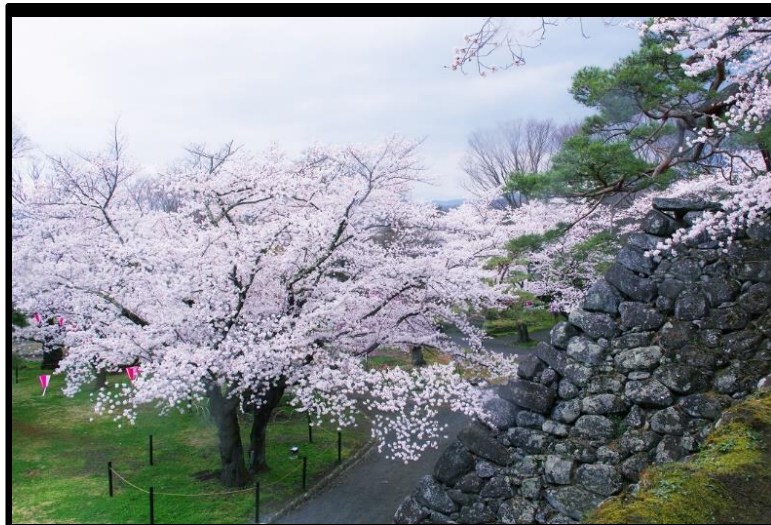
高速バス

池袋駅	関越自動車道	上信越自動車道	小諸駅
新宿駅	関越自動車道	上信越自動車道	小諸駅

自動車 (150km)

練馬IC	関越自動車道	藤岡JC	上信越自動車道	小諸IC
------	--------	------	---------	------

小諸市
(人口41,954人)



春 夏
秋 冬



小学校6校	児童数	築年数
東小学校	429人	築52年
坂の上小学校	307人	築50年
野岸小学校	270人	築42年
水明小学校	339人	築46年
千曲小学校	97人	築39年
美南ガ丘小学校	626人	築54年

中学校2校	生徒数	築年数
小諸東中学校	694人	築30年
芦原中学校	390人	築22年

平成27年度 望ましい教育環境や学校施設整備についての懇談会

平成28年度 学校改築市民懇話会／長期学校改築計画に関する市民学習会

長期学校改築計画検討会で議論開始(計13回議論)

平成29年度 長期学校改築計画検討会より「提言書」提出

平成30年度 長期学校改築計画に関する懇談会

令和元年度 学校改築・再編基本方針を決定し、小諸市学校教育審議会
審議開始



1 基本方針の考え方

小諸市で育つ子どもたちにとって「より望ましい学校の姿」はどうあるべきか、という視点を最優先として議論を進める。

2 望ましい小学校の規模

「1学級の児童数が20～30人前後」で「1学年の学級数が少なくとも2～3学級」

3 小・中学校の配置及び校区

(1) 学校再編とあわせて通学区の見直しも検討する。

(2) 小中一貫教育制度の在り方について検討する。

(3) 学校再編にあたっては通学路の安全確保や遠距離通学に配慮する。

令和2年度 中間まとめ市民説明会(計13回の審議結果)



1 より望ましい学校の姿

児童・生徒一人一人の学びを支える教育を推進する学校

2 学校体制づくり

- (1) 学校教職員と行政サービスの集約
- (2) 市民参加による教育の推進
- (3) ICT機器の活用

3 小中一貫教育の形態と小学校の再編

芦原中学校と小諸東中学校を学区とする併設型小学校・中学校の形態で小中一貫教育を推進することが望ましい。



「望ましい学習環境」の見える化について

「小諸市学校教育審議会 中間まとめ（令和2年3月23日）」

学校教職員と
行政サービスの
集約

学年や教科が
チームをつくり、
協働して1人1
人の学びを支える

市民参加によ
る教育の推進

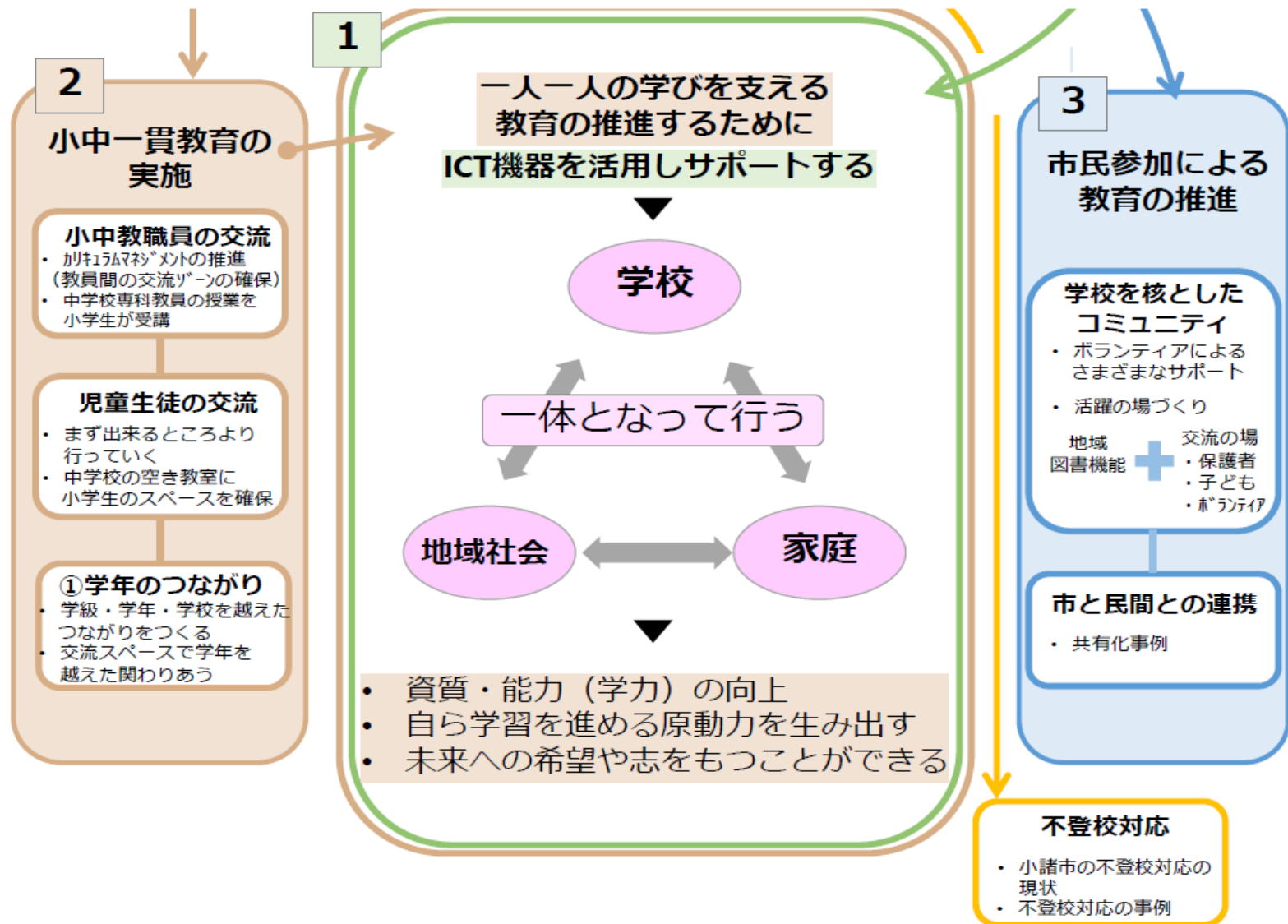
児童生徒を支え
る活動への市民
参加とコミュニ
ティ・スクールの
組織の充実

ICT機器の活用

自分の進歩の状
況や課題にあわ
せて学習を進め
ることができる
機器の充実と活
用

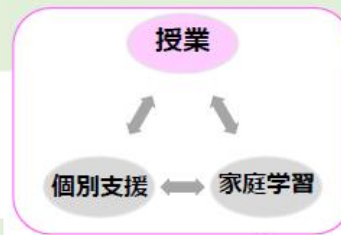
4 学びを支える環境を整える

- 保護者を支える相談体制、支援体制
- 合理的配慮・ユニバーサルデザインに基づく学習と学校の環境整備



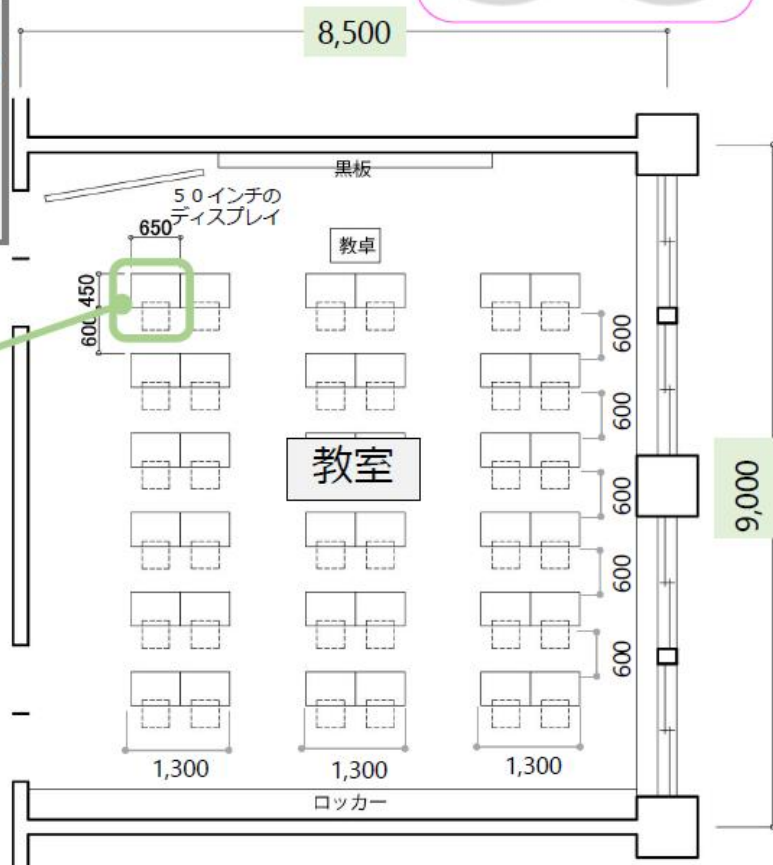
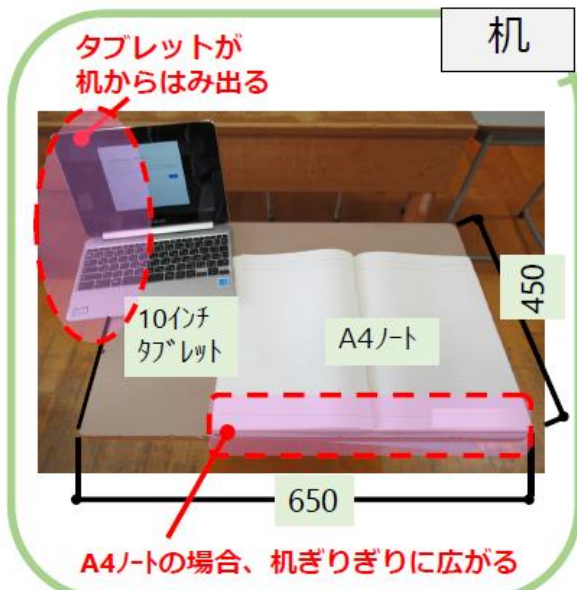
1. 一人一人の学びを支える教育の推進

授業



現状の教室と机の大きさ

- 芦原中学校 現状の教室
 - ・ クラスルーム面積 8.5m x 9m : 76.5㎡
 - ・ 1クラス 35人
- 芦原中学校 現状の机
450mm x 650mm

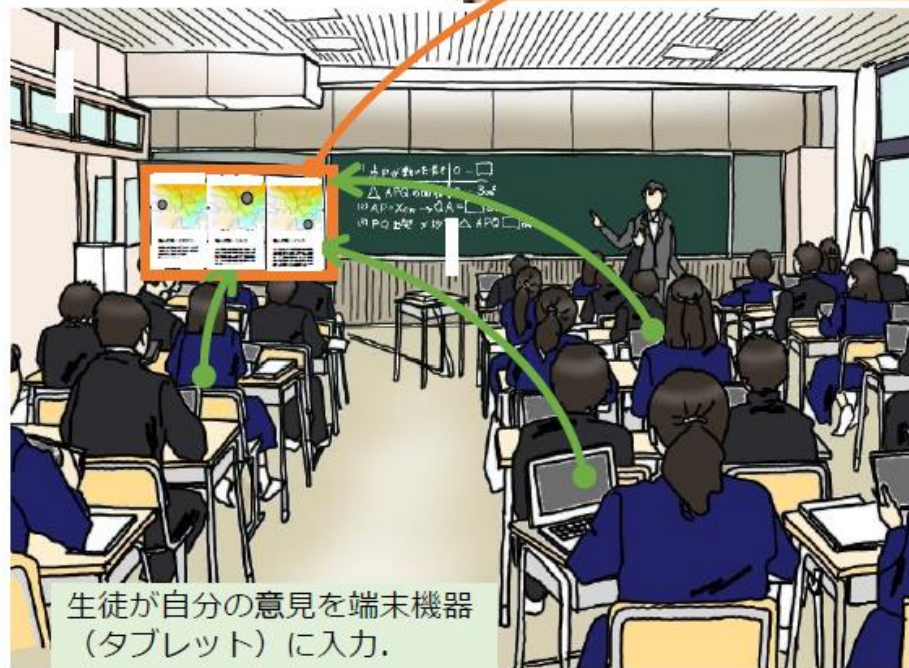




(1) ICT活用で、一人一人が思考・判断し表現できる学習

- 用意した画像や動画を端末機器（タブレット）に送り、一人一人の児童生徒が取り組む。
- 生徒の学習状況等をデータ化し、理解度別自動出題等、一人一人に合った学習ができる。
- 教員も児童生徒も「今どこまでできるようになったのか」を把握できる。
- ICT機器を活用した互いに検討し合う学びは、一人一人の学びを支え、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

生徒一人一人の意見がディスプレイに表示され、一人一人の考えを共有。



生徒が自分の意見を端末機器（タブレット）に入力。

1. 一人一人の学びを支える教育の推進

授業



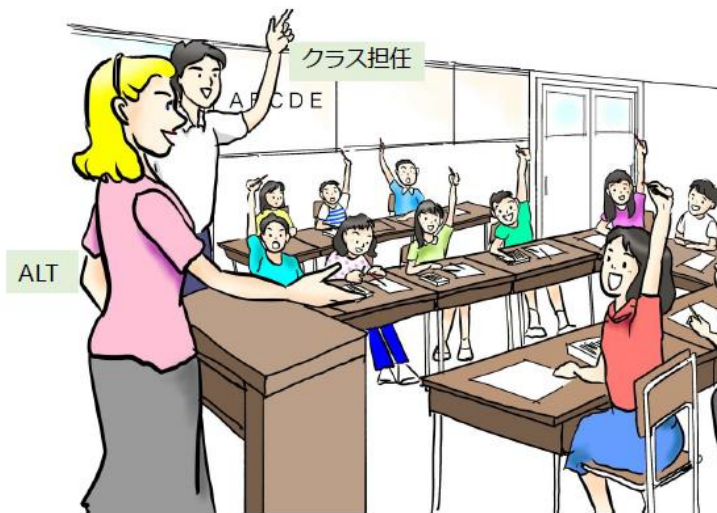
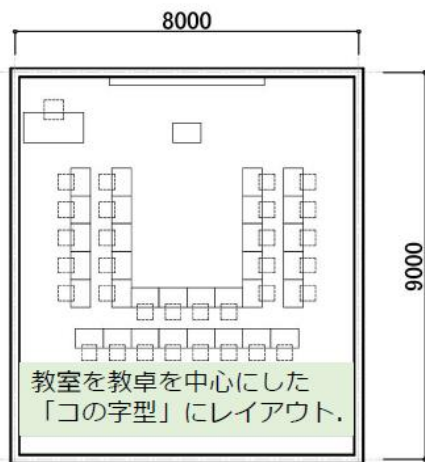
(2) 英語に親しみコミュニケーション能力向上を図る学習

- 小諸市の小学校では、平成27年度より国のモデル事業の一環として「英語教育強化地域拠点事業」に取り組み、コミュニケーション能力を育成している。
- 外国語指導助手（ALT）のネイティブな英語を通して、子どもが英語に慣れ親しみ、積極性を育むとともに、「非認知能力」の向上にもつながる。

段階的な活用方法

1. 会話重視（コの字型授業）

クラス担任とALTのモデル会話を見たり聞いたりしながら、会話の仕方に慣れ、子ども達みんなが挑戦してみようとする意欲を育む。



ALTとクラス担任による会話表現の授業。

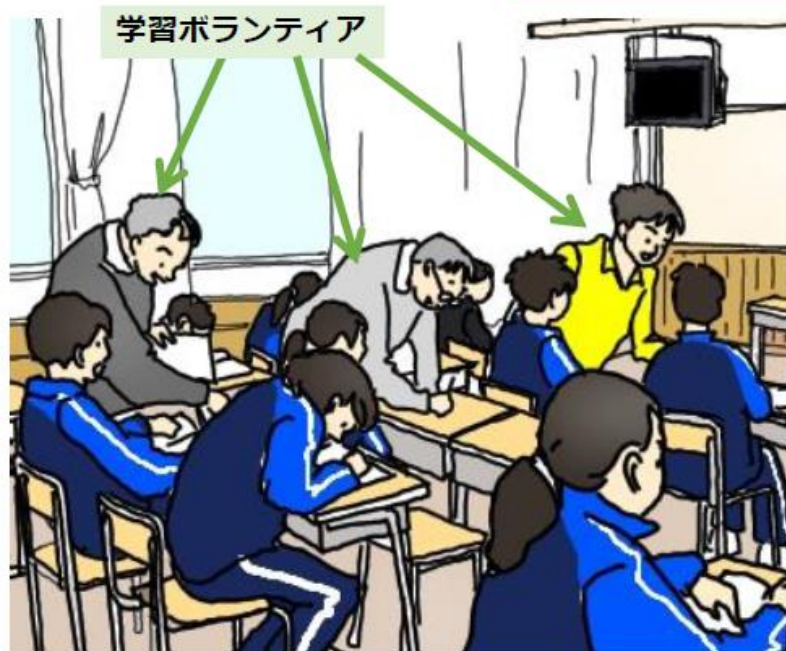
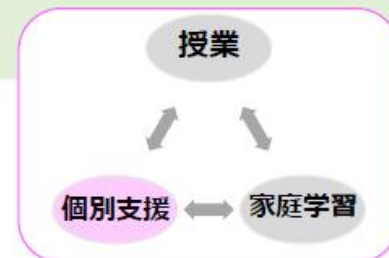


1. 一人一人の学びを支える教育の推進 個別支援

(3) 補習「個別支援」

① 地域ボランティア指導員によるサポート

- 地域市民の協力を得て、「信州型コミュニティ・スクール」の取り組みを進め、学習ボランティア等の導入が行われている。
- 放課後に子どもの学びをきめ細かく支えるボランティア指導員によって、資質・能力の向上を図る。
- ボランティアは、子どもの学習サポートの方法等を話し合い、子どもに寄り添いながら活動を行う。



1. 一人一人の学びを支える教育の推進

家庭学習

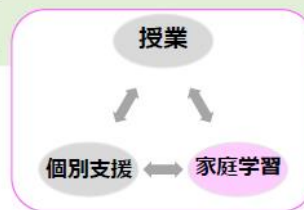
(5) 学習を進める原動力を生み出す「家庭学習」

① 保護者に支えられる家庭学習

- 保護者に見守られ支えられる家庭学習は、児童生徒にとって**学習への意欲向上**となる。
- 親子が対話する貴重な機会となり、学校での様子や**心の状態への気づき**も期待でき、児童生徒にとって心の成長につながる。

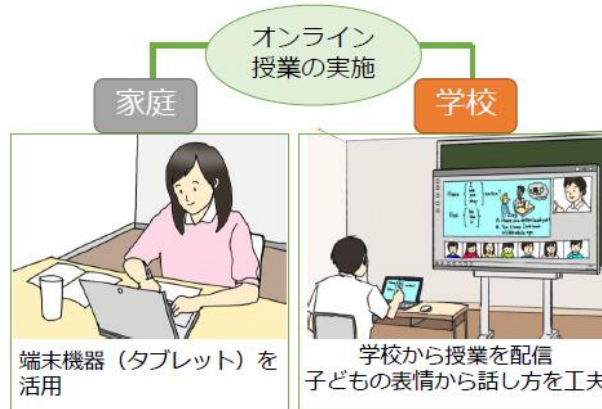


子どもの読み聞かせで親子のつながりを作る。



② オンライン授業の実施

- 休校時は、学校との双方向**オンライン授業**を実施することで、家庭で学びを継続できる。



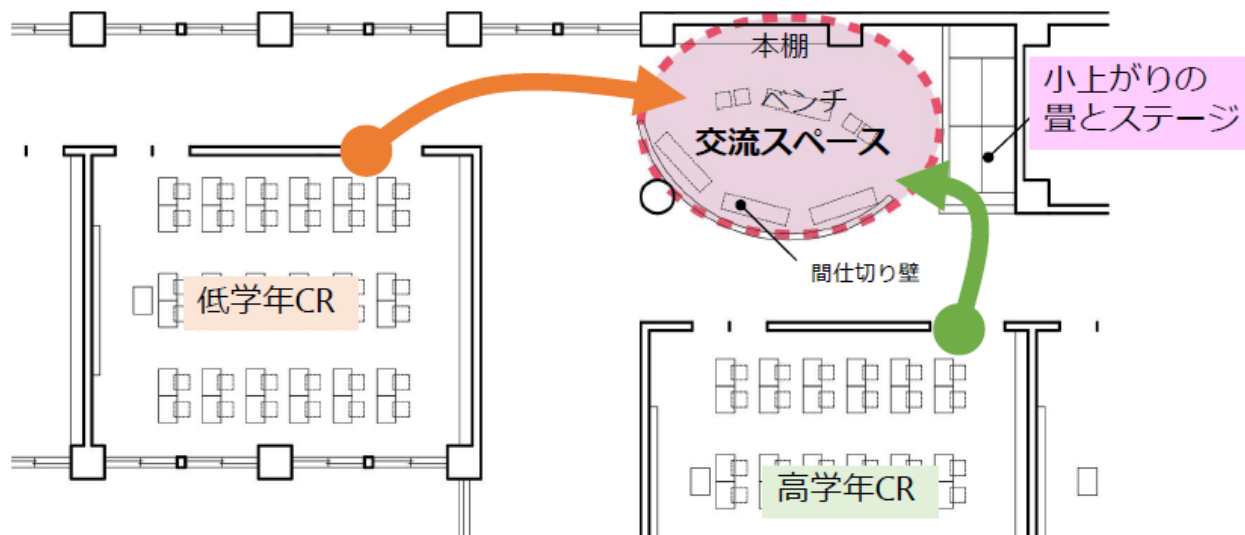
2. 小中一貫教育の実施

できるところから実施する

(1) 学年のつながり

① 学級・学年・学校を越えたつながりをつくる

- ・ 小学校から中学校へ進学した際の「学びのギャップ」や「学校生活のギャップ」の解消のため「学年を越えたつながり」の場を設ける。
- ・ 小学校の高学年ゾーンと低学年ゾーンの間、ベンチ等家具を配した交流スペースを設ける。
- ・ 交流スペースでは、休み時間を利用して高学年と低学年がさまざまな交流活動を行う。
- ・ 交流を通して高学年の自覚が深まり、活動の成功体験が児童の成長につながる。



3. 市民参加による教育の推進

学校を核としたコミュニティ

① ボランティアによるさまざまなサポート（地域の子は地域で育てる）

ボ
ラ
ン
テ
ィ
ア
サ
ポ
ー
ト
メ
ニ
ュ
ー

《放課後学習のサポート》 信州型コミュニティスクール

- 放課後に空き教室等を利用して、地域ボランティアが子どもの学習をサポートする。端末機器（タブレット）を用いた学習等により支援していく。



《読み聞かせサポート》

- 読み聞かせから様々な世界に触れ、知的好奇心が刺激され「言語能力」が向上する。そこから、**資質・能力（資質・能力）**が育まれる。



《校舎周辺清掃のサポート》

- ボランティアによる草取りや花の手入れを中心に校舎の清掃を実施。地域の人々が学校に足を運ぶことで、**学校が地域に開かれた場所**となる。

《登下校の見守り隊で安心安全をサポート》

- 登下校時に横断歩道等で子どもを見守るボランティア活動。登下校時に挨拶を交わす等ふれあいから、**地域との絆も深まっていく。**



4. 学びを支える環境を整える

不登校対応

① 小諸市の不登校対応の現状

- 小諸市では、芦原中学校区に小諸市教育支援センターが1つ設置されている。
- センター長1名、指導員3名、スタッフ4名、教育委員会事務局（指導主事3名）が連携し、対応している。
- 不登校支援講師が、市単独で中学校4名配置されている。





小諸市の小中一貫教育の形態と小学校再編

芦原中学校と小諸東中学校を学区とする併設型小学校・中学校の形態で小中一貫教育を推進することが望ましい。

小学校再編は併設型小学校・中学校の形態を実現することを念頭において進めることとする。再編により小学校を新設する場合は少しでも中学校に近いことが望ましい。



小中9年間を通じた連続的・系統的に進める教育は・・・

小学校の再編が完了するまで待つのではなく、出来るだけ早く小学校5年、6年、中学校1年の小・中学校の接続を中核としながら、小・中学校間で目指す子ども像を共有し、同じ方向性をもってカリキュラムの編成、実施、マネジメントを行う取り組みを推進していく必要がある。

ご清聴 ありがとうございます